職を勧誘し復職した職工は一人も残らず會社外に出さず社内で寢食をさせて居るが近く夫等忠勤職工に對する慰安會を開く豫定である

度を執り職工側の形勢を傍觀して居る

自動車で復業勧誘は

勞働運動の壓迫だと怒る

友愛會から出張して居る罷工派警戒の見張委員は刻々情勢を報告して居るが十二日午後に到り會社側が復職勧誘の一手段として自動車で職工の自宅訪問をして居るのを見て壓迫々々と大憤して友愛會事務所及び各支部事務所に貼出した

十六日には全員出揃ふ

現在の交代では勤まるまい

十二日午前中の調査に依ると春日出發電所の復職職工は三百八十九名中二百十二名、安治川

發電所の方は四百五十餘名中百五十名に達して居る、會社側の聲明する處に依ると來る十六日迄には理想的の人員を收容し得る自信があるとの事である、但し

收容し得るとしても現在の如き二交代で作業を續ける事は到底不可能であると一消息通は語つて居た

解職手當の日數算定に

勤怠表を持參せよと

兩發電所に掲示

會社は解職手當を職工に支給するとしても職工間に交付してある勤怠表と所屬發電所の帳簿とを照合しなくてはならないため會社側では十二日午前本社及び春日出安治川兩發電所門前に解雇職工は各自十三日迄に勤怠表を持參するやう掲示した

國粹會が嘴を容れる

友愛會の言分を聽いて

罷業員の代理を勤めるか

十一日夜天王寺公會堂で開かれた友愛會主催の大電爭議演説會の席國粹會理事山村森藏氏が西尾友愛會主事と會見し調停の勞を採つたが西尾氏は明日を期して別れた爲國粹會の方では十二日午前十一時西尾氏を自動車で其宅に迎へ直ちに西區築港三條通

代議士 樋口伊之助氏

自邸で榊辰之進今北治作外十數氏と會見し國粹會の方からは今回の大電爭議に對する動機友愛會との關係第二回の要求提出に到つた經過に就き質問する處あり西尾主事より拒細漏さず説明し午後二時少憩の後双方協議する事となつたが友愛會側では

協議の結果を會員に報告すると同時に電業員に諮り其回答を齎し國粹會に報告し、國粹會から會社に諮る豫定である(午後二時半)

頗る平穏無事

警戒も至極に寛大で

演説も静かであつた十一日夜の

罷工團主催大電問題演説會

5・13

問題となつてゐた大電罷工團主催の大電問題演説會は十一日午後六時半折柄の小雨中に天王寺公會堂で開催された、罷工團費用として一人前三十錢を徴收したが大したもので入場者千五百名約八百名の電業員は階下に其他は階上に陣取る

所轄天王寺署では魚森署長以下物々しい警戒振りを見せてゐたが私服正服の警官等何れも成る

[illegible]安治川の深田繁次君が司會者となり開會の辭を[illegible]

やつて露國や支那の革命はとやつて注意され松原君(安治川)は首を切られたんだからどんらんかんをやるかも知れぬとの前口上に君々の首を切るは會社の首を切ると等しいとやつてのける

次に飯原君(安治川)が出て平井才一君(造船工)が官吏讃々祭次郎(機械工)小島源太郎(春日出)[illegible]が出た頃から盛んに野次り出して猛烈にやれなどとやる。友愛會の野田律太君が讃美歌だと言つて勞働歌を歌つて喜ばせ夫れから次々に辯士が出て中には鳥井君(友愛會)の様に爆彈だの飛行機だのと脱線する東京勞働組合の平澤計七君は

今度の問題は市民を愛する爲めに穏便な處置に出たので然らざれば大阪中を

眞暗にしたのだと怒號し東京に於ける罷業の經驗から對家庭、對罷工、對警官を述べる

恰度此時である樂屋へごやごやと這入つて來た國粹會の六人が「此仲裁は俺達に任せて呉れないか」と申出でたが猶熱慮してお返事すると温和に拒絶した。猶エルエル會の連中などの姿も見え初めた。斯くて次々に伊藤政次(屋外勞働)上野(造船工)藤岡文六(神戸友愛會)竹内(友愛會)桑原(印刷工)諸君次々に演壇に起つたが安藤君(伸銅工)東君(友愛會)などの大立者が出て聽衆は無暗矢鱈に喝采して喜んだが豫期した程の騒ぎも無く最後に西尾末廣君(友愛會)は「會社は今苦境にあるのであるから諸君は決して中途で挫折してはならない」と元氣づけて十時過ぎ閉會したが此日企業立憲勞働其他から數十圓の同情寄附金があつた

此日の警戒振は非常に寛大で臨監に反して何等の事故無く一同は勞働歌を高唱して散會した